

平成 26 年度はなバス利用者アンケート調査結果（抜粋）

平成 26 年 6 月 10 日（火）、15 日（日）に実施した利用者アンケートの内容を次に示す。

1 配布状況

(1) 平日（6 月 10 日（火））

アンケート配布数は、ルート合計で 2,111 人であった。

(2) 休日（6 月 15 日（日））

アンケート配布数は、ルート合計で 1,199 人であった。

2 回収状況

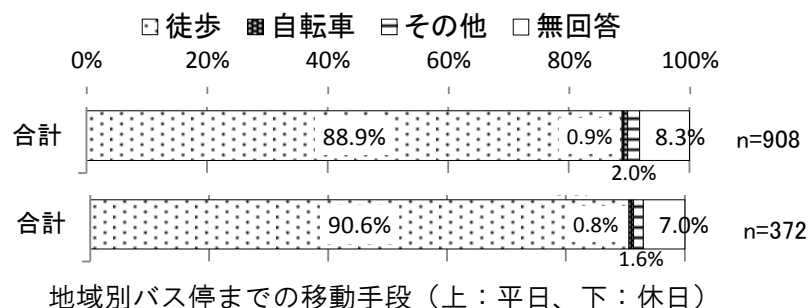
(1) 平日休日合計では、配布数 3,310 票に対し 1,280 票の返送があり、回収率は 38.7%であった。

(2) 平日は、配布数 2,111 票に対し、908 票の返送があり、回収率は 43.0%であった。

(3) 休日は、配布数 1,199 票に対し、372 票の返送があり、回収率は 31.0%であった。

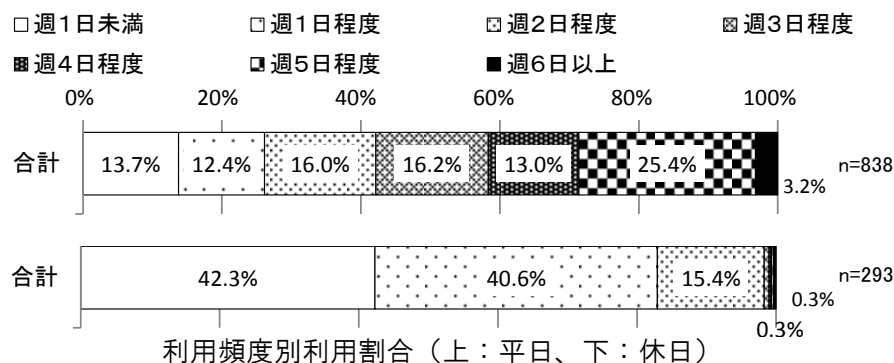
3 最寄バス停までの移動手段

平日、休日とも、徒歩利用が大半である。



4 利用頻度

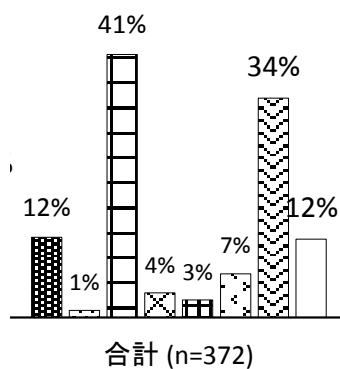
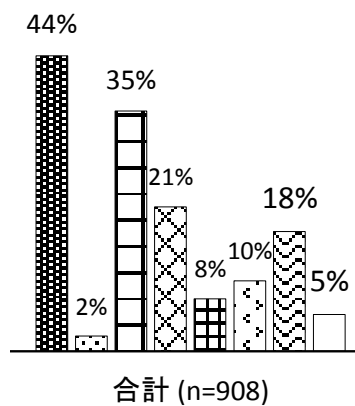
平日は、ほぼ毎日となる週 5 日以上が 25.4%と最も高く、休日は、週 1 日未満の利用が 42.3%と最も高い。



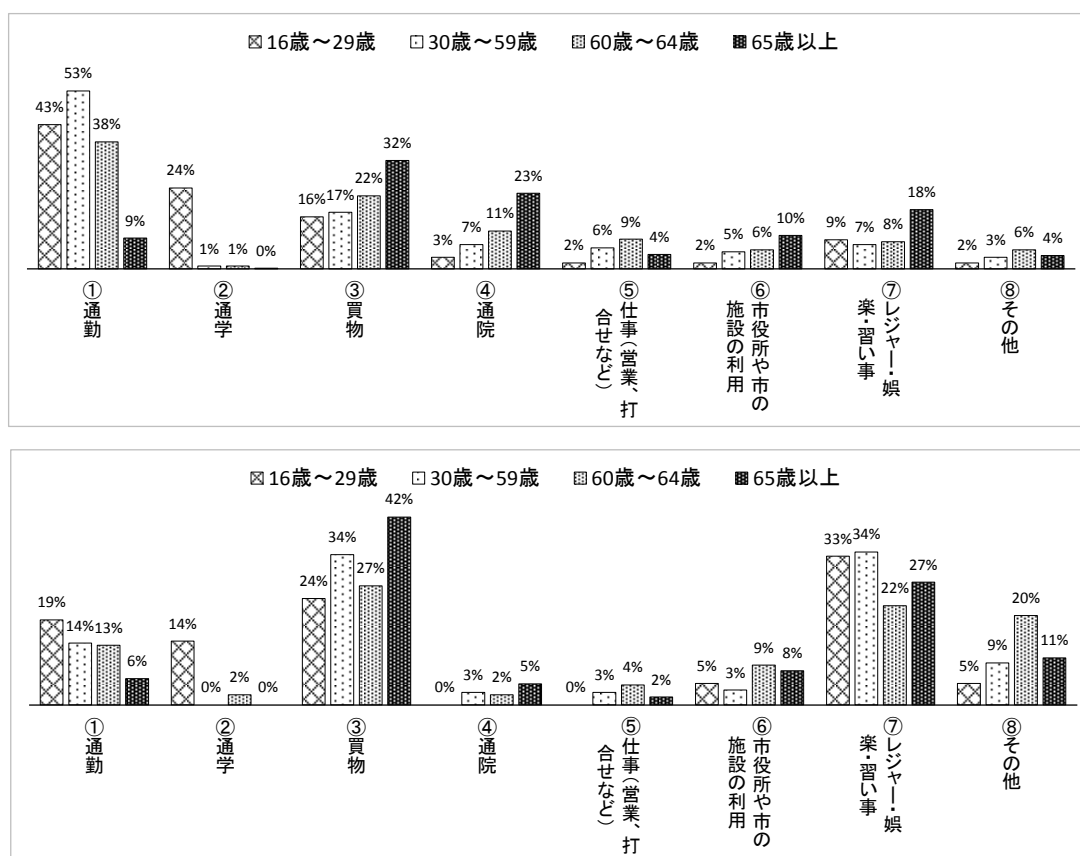
5 はなバス利用時の外出目的（複数回答）

平日は通勤と買物が多く、休日は買物とレジャー等の利用が多い。また、年代別の外出目的としては、平日の64歳以下では通勤目的の割合が高いが、65歳以上では買物、通院、レジャー等が他の年代よりも高い。

①通勤 ②通学 ③買物 ④通院 ⑤仕事(営業、打合せ) ⑥市役所、市施設 ⑦レジャー・娯楽・習事 ⑧その他



外出目的別利用割合（上：平日、下：休日）

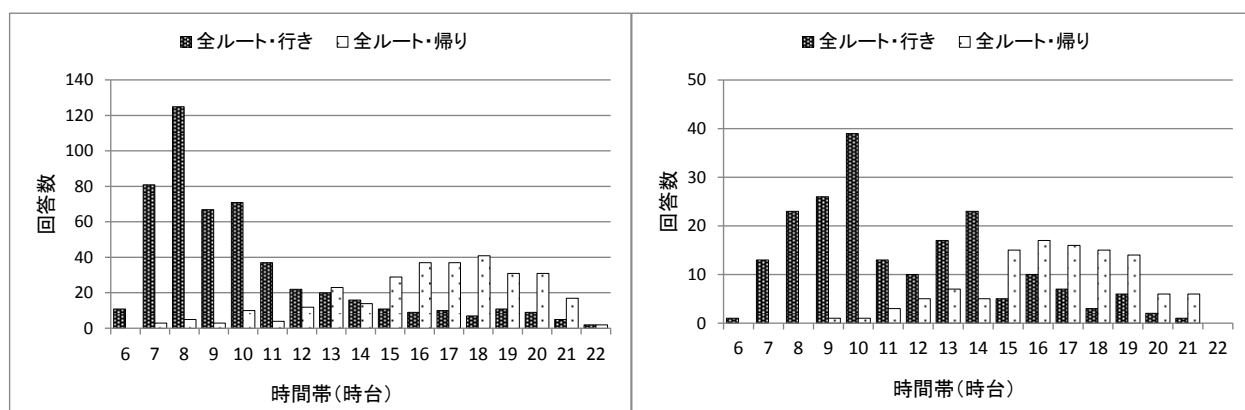


外出目的別・年代別利用割合（上：平日、下：休日）

6 乗車時間帯

平日、休日とも、午前中に行き、午後に帰りのパターンとなっている。

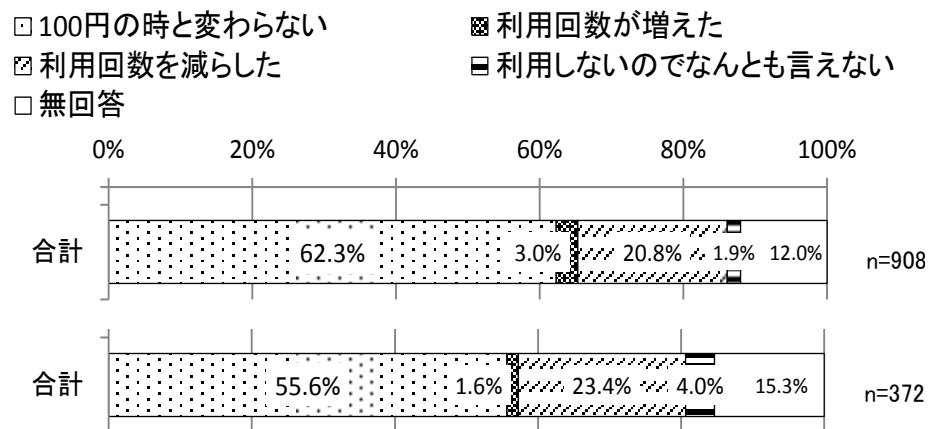
また、休日は、行きの時間帯のピークが10時台と平日よりも遅く、帰りは15時台～19時台がピークである。



乗車時間帯別利用者数（左：平日、右：休日）

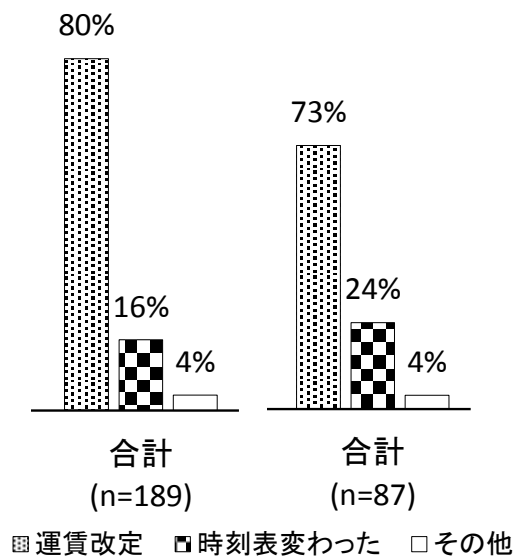
7 運賃改定による利用状況の変化

平日、休日とも、「変わらない」が過半数となっているが、利用回数を減らした割合も平日、休日とも 20%を超えている。



8 運賃改定により利用回数を減らした理由

運賃改定をあげる回答が最も多い。

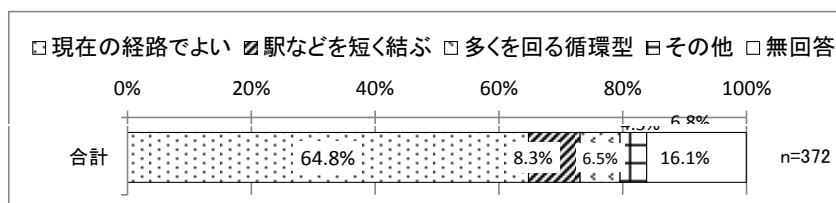
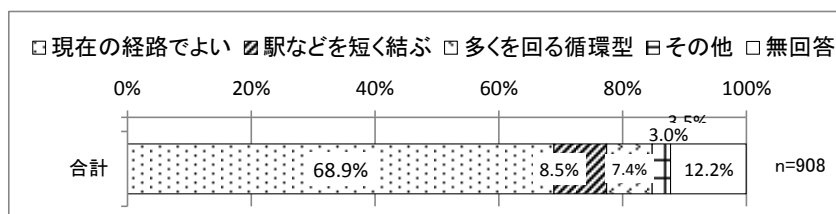


運賃改定後に利用回数を減らした理由（上：平日、下：休日）

9 はなバスの満足度

(1) 運行経路の基本形

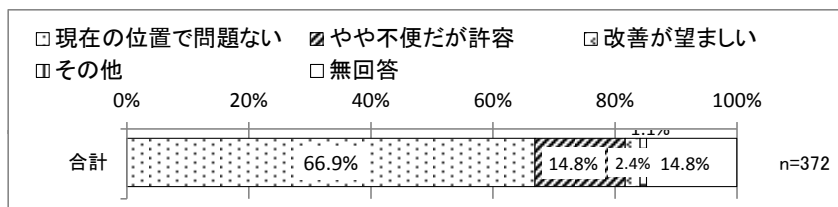
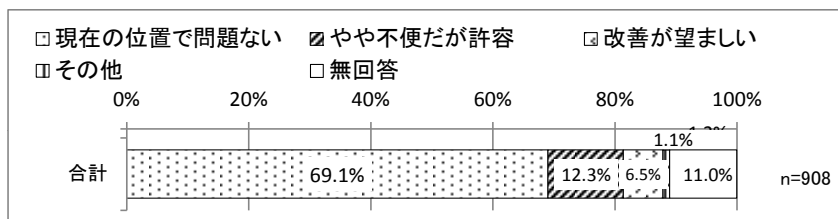
「現在の経路で良い」との回答が平日で 68.9%、休日で 64.8%となっている。



望ましい運行経路の形（上：平日、下：休日）

(2) バス停の位置

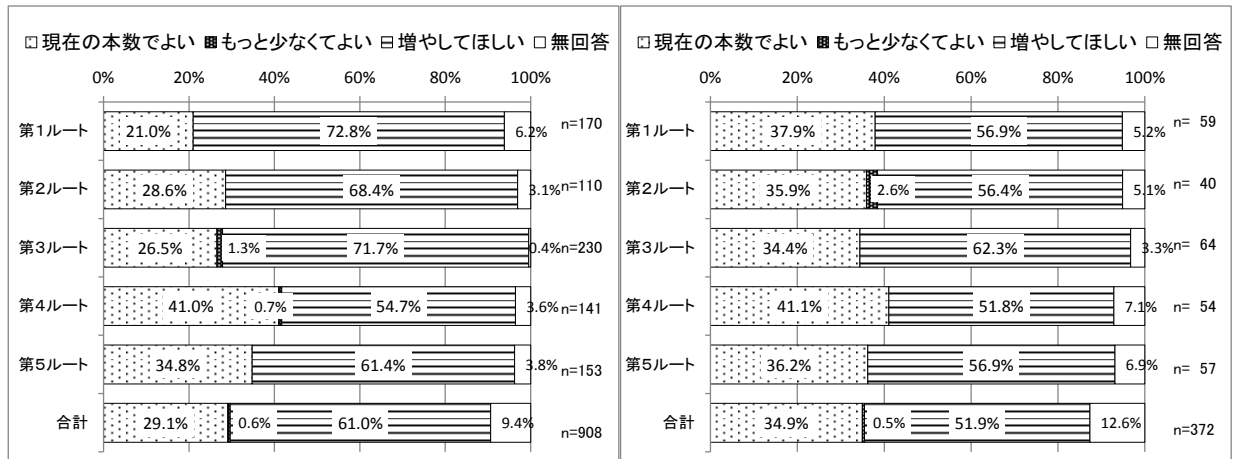
回答が、平日、休日とも「現在の位置で問題ない」と「やや不便だが許容」の回答を合わせると、80%以上が現状のバス停位置を肯定的にとらえている。



バス停位置への評価

(3) 運行本数

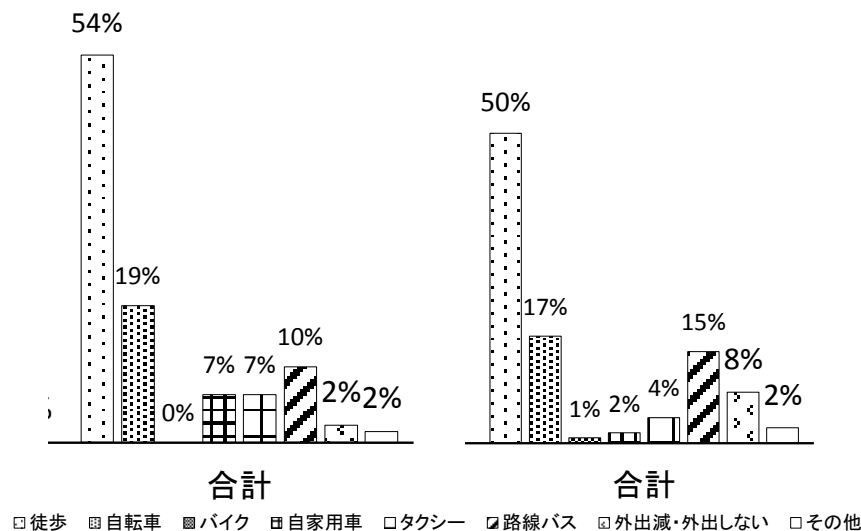
どのルートも、増便を望む回答が過半数であり、特に、平日で高い。
平日では、第1, 3ルートで増便要望が70%を超えている。



運行本数の評価（左：平日、右：休日）

10 運賃改定による移動手段の変更

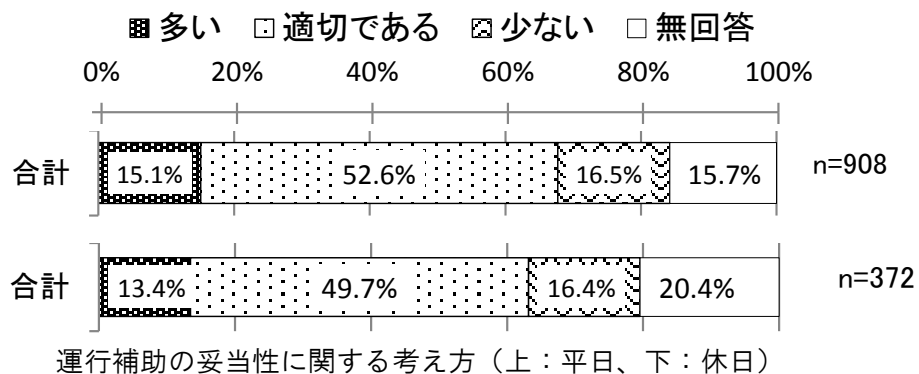
約半数の利用者が徒歩へ変更している。



運賃改定後に変更した移動手段（上：平日、下：休日）

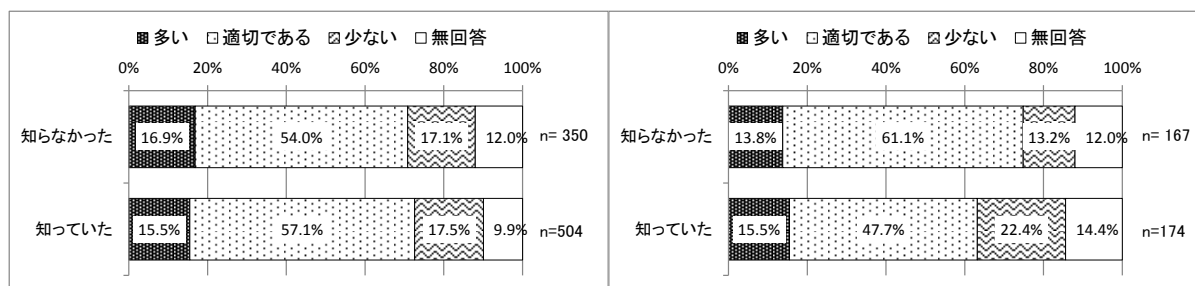
11 運行補助の妥当性について

運行補助額が「適切である」との回答が最も多い。



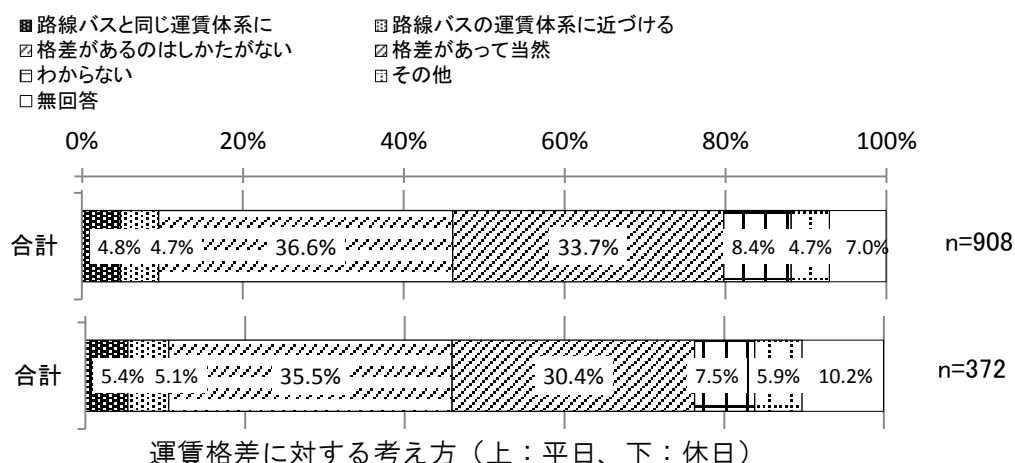
12 運行補助の妥当性（運行補助実施認知度別）

平日、休日とも、運行補助の実施認知度の違いによる差異は少なかった。



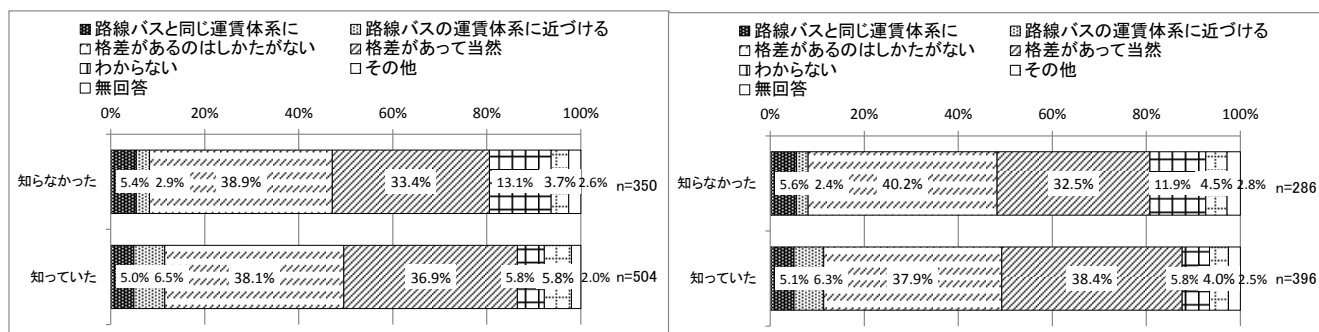
13 路線バスとの運賃格差への考え方

平日、休日とも、運賃格差に肯定的な意見（「しかたがない」「あって当然」）が多く、双方合わせて平日が70%程度、休日は65%程度である。



14 運行補助の実施認知度別の路線バスとの運賃格差への考え方

平日、休日とも、運行補助の実施認知度の違いによる差異は少なく、運賃格差に肯定的な意見（「しかたがない」「あって当然」）の双方合わせて70%を超えている。



運行補助の実施認知度別・運賃格差に対する考え方（左：平日、右：休日）